夕刊 磐城新聞
十一月二十六日發行
（日曜祭日翌日休刊）

現代歌謡詩人の行くべき道と新分野 (3)

中山輝

十年一日の如く、相も變らぬ類想的な歌謡が、心あるべき歌謡詩人によつてすらまだ書かれてゐるやうでは、社會大衆が、レコードと遊び、附曲されてゐないし面白くない活字民ヨウなど見向きもしなくなるのも當然であらう

斯くては、嘗ての自由詩が社會大衆から遊離して一部特權階級（知識人としての）の一部の詩人層のみの謠詩化した如く、歌謡詩人の作る歌謡も、歌謡詩人のみに味はれるといふ皮肉な時代を見んとも限らないのである。こんな狀勢で、それで果していゝのであらうか。時代への鋭い批判もなければ、諷刺もなく、心境報告か、昔の唄の作り替へか、或は手先乃至机の上の遊花的な歌謡の氾濫に、それで一體歌謡詩人の使命とか面目が成り立つであらうか

僕は嘗て數年前、このことに論及して、打開策の一分野として民謡詩（假定語）を提唱し、歌謡の內容と形式の變革を叫んだことがある。それ以後、或は山內隆君や早川嘉一君など數名の心ある人々によつて實踐され多少の效果を擧げてゐるのを知つてゐるが、しかしこれは難業であつて一朝一夕に出來上るものでなく、その上理解ある作曲家の協力を必要とするものであるから、今直ちに應急策に間に合はぬであらう。これは將來への長日月に於ける歌謡詩人への課題としてこゝに再言せぬが、我々は、現代歌謡の打開策として、一本の注射を求める必要がある。先づそれには、なぜ現代歌謡が行きづまつてをり面白くないか、といふ病症を探るべきである

なぜ面白くないか、なぜ堂々めぐりをしてゐるか、なぜ伸び切れないのか、現代歌謡のもつ欠陥を探求するのも我々の務めの一つであらねばならぬ。これは詩の場合と異つて、作曲といふ同伴者を考慮せねばならぬから、兎角拘束されがちである。しかしそれだけに範圍が狹められて、探求も難事ではないであらう。この問題を解決することによつて現代の歌謡詩人の方向も自づと定められる筈であると考へる

潮聲休刊

赤羽松堂

回顧すれば我潮聲が創刊してより年次は七年、句集は第八十五集となりましたその間決して短しとせず時は例月の句會に於て時に同人が相會する折に於て潮聲の發展と向上を策したることゝに一再ならず、また一面に於て先輩佐藤素秋氏岡本機柳氏よりは特段なる支援をうけ、また辛夷の主宰前田普羅氏燕風主宰の天野雨山氏　選簡を發表し、その他松村白湫氏以下諸先輩の投詠等一意專念我々の句作精進の資料となし向上を企畫したるも未だ以て宿昔の志望に達する能はず衷心うたゝ遺憾であつたのであります、今やその志望の片鱗として中央俳壇に躍進する機運に際會しましたそれは俳句生活の大衆運動として松村白湫氏の主唱にかゝる俳紙の月刊雜誌『あけび』の創刊である、我潮聲會員の多數がこれに參加せられ去る十一月三日の佳辰を以てその第一巻第一號が現實されたことは我々同人が志望の一端であり、よ〳〵中央俳壇に進出した曙光であります、是に於て潮聲同人の參畫を得てこゝに合流し、平『あけび』會を創立し一路躍進することゝなりました

磐城歌壇推薦歌

新妻久滿男選

『演習を觀て』　川越市　加藤純弘

○霜白き野草に伏して擊つ兵の眞上に寒き星の光かも
○工場の屋根にひそめる機銃隊射擊に赤き火をはくが見ゆ
○砲音は曠の大野にこだませり戰今はたけなはなるか
○初雁の里の夜明けに高ひゞく休戰ラッパの音は澄みにけり
○銃音の絕ゑてかそけきこの原ゆ陽に赤々と見ゆる富士かも
○畑道を砲車挽きつゝ馬の並みな白々と息ばきて來る

（註　初雁の里は川越固有の別稱）

潮聲硯靜抄帳

雅信

本年中秋の良夜も無月に終り　東京牛込　素秋
こゝろしてまつ甲斐もなし三五の夜
後の月
初夜過ぎてちらと拜みぬ後の月
芭蕉忌に
何かなど探る枯野や手向草
十月八日偶吟
さわやかな日和つゞきや竹の春

金子　石城
見なれたる池にうつるや後の月
城山はしづもりくらし十三夜

靜かな月夜

須田いはほ

風は梢に
うごいてる
ほんの、かすかに、動いてる

銀に、うつすら
あかつてる

今夜は、とても、いゝ月夜

たにに、わいてる
うすいもや

月は、ほやりと、けぶらせる

河鹿は、月夜が
うれしくて
静かに　笛を　吹いてゐる

風は　雲に
うごいてる
光つて　かすかに　動いてる

與客夜坐（其の二）

珠雲　小野務平

秋窗有客笑相迎
渭樹江雲前日情
話舊談新歡不盡
稱杯偶坐月三更

ソノ日〳〵

11月27日――△鶴屋南北歿去（文政一二）△鐵道敷設工（明治一〇）△記念艦三笠を始て一般公開（大正一五）△第六十六臨時議會召集△高橋氏藏相就任受諾（昭和九）

○

湯あがりの一杯は風邪をひき易い因だといふお醫者さんの話が左黨を賑はしてゐる

正誤。昨紙一面、本社主催短歌會詠草中渡邊何鳴氏の初冬雜詠『かたくなた濃き』は『かたくなに濃き』の同『さむざむきゆ』のは『さむざむきこゆ』の何れも誤りに付訂正す

講談　黄金魔刄 (13)

高桑義生作　樋口悦也畫

雁の旅（四）

大村の縦屋といふ宿の二階で島原屋の一行八人は早い夕飯をすまして、一室に額をあつめた。小者だけが馬に飼料を與へにいつてゐない。例の大型の長持が床の間いつぱいに、大切さうに置かれてあつた

夕日が赤々と障子を染めて欄干にとまつた蜻蛉がクル〳〵と頭をまはしてゐる外は泊りの客を引く聲、驛馬の鈴の音

原地十郎は約束通り城下の茶店で一行と落ち合ひ、そこで女の事をかひつまんで話したが、更に今そのくはしい經緯を一同に打明けた

『その女よりも辰巳屋と名乘つた男、實に奇怪ではないか、外に洩れるはずのない極祕の事件を、どうして知つたか？そこで江戸への急飛脚――七つ星殿への使者とまで、ピタリと星をさしたのだ。また破牢の一件、表沙汰になるはずもなし、あの少年のほかに、今一人浪人者があつたなぞ、始めて其奴から聞くのだ。商人風情で左樣なくわしい事情を知らうわけがない』

『フウム、すると其奴先夜の賊ではあるまいか？また、あの一件と破牢とは何かの糸を引いてゐるのではあるまいか？』

『何ともいはれぬが……』

『第一、拙者はあの少年が怪しいと睨んでゐるのだ。箕部氏の取りなしで赦されたが、箕部は奴を手飼にするといふ話。粹狂な。あの男は時々妙な事をやらかす！』

『如何にもあの少年が怪しい。或は彼奴が一味の間諜で、彼奴から外に洩れるのかも知れぬ。箕部にはどういふ考へがあるのか？』

『なあに、美少年だから稚子にでもする氣だらう』

『冗談はさておいて、この旅はよほど氣をつけねばならん。其奴にしろ、女にしろ、何か目的あればこそ一―消えたきりではない。明日にもまた現はれる。いや斯ういふ間も油斷は出來ない。たかの知れた奴等だが用心に若くはない』

『引つ捕へて詮議したら如何です？』

と、手代の牛七が口を入れた

『いや、其處がむづかいし處だ。たゞ怪しいといふだけで何の實證もつかんでゐない。しかも其奴一人二人ではなくてかならず仲間がある。もし先夜の賊、或はその一味ならば願つてもない仕合せ。われ〳〵はその搜索の役目も仰せつかつてゐるのだから……』

『一體あの晩の賊といふのは、男でせうか、女でせうか』

おなじく手代の繁松が突拍子もない事をいひ出した

『なるほど……』

『誰も姿を見てはゐない。多分一人だらうといふ事ですが、實際男だか女だかわからないのぢやありませんか』

『如何にも尤もである』

『例の大賊が入り込んだといふ噂は去年からだが、なるほど放火盜賊はよくあつたが、しかし大賊といふほどの仕事ぢやない。恐らく今度のが一番の大物だらう！』

『世間に知れたら大騷ぎだ！』

『いや、すでにその秘密を知つてる奴がある』

『まつたく油斷も隙もあつたものではない』

『これがたゞ急ぎの旅といふなら、ズン〳〵先に急げばいゝのだが、何かえたいの知れぬ奴共に眼の前をちら〳〵されては默つて棄てゝ置くわけにも行かぬし……』

『シッ』

その時、あわたゞしく小者の次郎吉が入つて來た。彼は四角な顏を異樣に緊張させて

『居りますぜ、あの女が――。丁度この裏二階です。わたしがヒョイと見るとてすりにもたれて見てゐやがつた。そしてニッコリ笑やがつた……』

『よし、見て來よう』

飯野左傳次が刀をとつて立ち上ると

『待て、はやまるな』

と、原地十郎は手を上げた

表に二挺の駕籠が着いた

廣告

新田町
榮ちゃんの
しろうど料理
天下一品不味い
榮ちゃんの
おでん

前田醫院
院長　前田清美
新田町電話一二四

國はニッポン・魚は…
日本水産特約
御小賣
平製氷
電二二八・三二六番
鯛　エビ　白魚　ワカサギ
銀鯛　甘鯛　芝エビ　貝燒
平目　目拔　鮭鱒　其他
ヒノマル凍魚
代理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備
自炊ノ便アリ
醫學士　山內亨吉
山內醫院

勉强ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品建具材
平町紺屋町
内外銘木
建築木材一式
便利瓦、木羽
（余）織田材木商店
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

特約店募集ス　早キガ勝チ
來ました皆樣お待ち兼ねの便利の友、お寒くなりましたがお召物のお繕ひに助ります。
㊥新時代に適合せる經濟的重寶な家庭必用品を發賣
裁縫代用　糸イラズ（一名針イラズ）　一家に一個　實に重寶
◎三越、白木屋で非常に大好評のイトイラズ即ち糸針を用ひず、織物布類の織合せ（繕ひ）が出來る……（然も針で出來ない事が出來る）
靴下。シャツ。足袋。毛織物。股引。洋服。オーバ。トンビ。穴アキの繕ひ
特徵　△何回洗濯しても離れる事なし△伸縮自在（メリヤス等にもよし）人畜無害△硬化する事なし（コハバラズ）耐水、耐熱、耐酸、耐鹽、にして（イトイラズ）裁縫代用液は多年研究し完全無欠の確信を以て發賣せるものなれば絕對に他の追從を許さゞる事を自負す
◇イトイラズは本舗にて絕對責任を負ます
◇ニセ物あり御注意を願ひます
定價　特用品 0.50　實用品 0.30　試用品 0.20
本舗　東京松惠製藥合資會社
代理店　平町古鍛冶町一〇（縣社下）　阿康藥局（電話四四番）　振替東京三〇〇六五番

内外
建築材
建具材
入　阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利（改メ）
電話四九四番

福祿ストーブ福引
景品付大賣出し
◇景品總額五萬圓◇
期間　昭和十年九月廿五日ヨリ
同　十二月二十日マデ
賣出規定…ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
福引券…
フクロクストーブ一號（大衆（中型）寶（大、小））各一本ニ付一枚
フクロクストーブ二號（大衆（大型））各一本ニ付二枚
フクロクストーブ三號（各一本ニ付三枚
フクロクストーブ四號（各一本ニ付四枚
抽籤發表　昭和十一年二月十一日東京朝日新聞ニ發表致シマス。
景品引換　昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス。
景品　福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ヘ左ノ景品ヲ差上グ
一等　百圓　一本
二等　參拾圓　二本
三等　拾圓　三本
四等　五圓　四本
等外　特製福祿便箋（空籤ナシ）
福祿ストーブ販賣代理店
平町五丁目　㊇ 釜屋商店
平驛前　㋡ 阿部石炭商店

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
寒暖計
体温器
◎秤ノ取次・縫針・糸・修繕致シマス
開内藥局
電話四〇番

夜間診療
胃腸性病　專門
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

自轉車。
リヤカー
フタバ商會
平・新川町・橋際

熱烈な
新任土木課長を迎へ 各方面から陳情攻め
地元民の運動が必要=と
小林平土木監督所長の希望

新任の河合本縣土木課長は既報の如く前後三日間に亘り郡內路線、港灣等を視察の上石川—湯本線を經て石川町に向つた

何せ初視察だけに新しい期待を持つて迎へられ何處でも引つ張り凧であつたが陳情の主なるものを擧げると平町將來の發展を左右する新川改修を筆頭に豐間、江名、中の作の第二期施工計劃、磐崎藤原兩川の施工延長、上遠野深山田、入遠野（水田—平線）風水害復舊等でこれら要望に對しては平土木監督に於ても夫々關係地元と提携して實現に努める事になつてゐるので小林所長も地元民の熱のある運動を望んでゐる、尚四倉—勿來間の視察により過般來叫ばれてゐた國道六號線の鋪裝實現の上にも少からず參考となつたものと各方面から期待されてゐると

緩急を考察して 完成に努力する
河合課長所信を洩らす

視察を了した河合土木課長は左の如く語つてゐたと

一と通り見たが橋梁は他縣に比し未だ不完全だ、道路面はよいが線形（屈曲等）に是非改良を要するものがある、港灣の繼續施工、新川改修は何れも重要性を有してゐる處から經濟部と連絡をとり實現に努めるつもりだ。云々

商業學校教練查閱
けふ好成績裡に了る

平商業學校の教練查閱は今二十六日磐中同樣佐伯第二十九聯隊長により雨霽れて爽冷なる揚土臺校庭及びその附近に於て行はれた、午前八時三十分校庭に全員閱兵整列檢查を受けた後同十時三十分迄校庭に各種小隊教練、同四十分より高麗橋附近に於て五年生陣中勤務軍事講話並試問十一時半より再び校庭に分列閱兵を受け、午後は講堂に查閱官より講評講演を聞き終了後職員は會議員に座談會を開いた

學童三千 納稅大行進
けふ町內を練る

平町納稅デーの催し旗行列は昨二十五日雨天のため今二十六日既報行程によつて行はれた『納稅デー』を朱書した手旗を手に三校合計三千餘の學童は町內に長蛇をなして納稅思想並及に努めて効あつたと

平賣捌所事務監查

新任の鈴木水戶地方專賣局長は今二十六日來平、住吉屋本店に四泊五日の豫定で平元賣捌所の事務

教員競技 本郡優勝

本郡對多賀郡の教員競技會は二十三日午前九時から松原小學校庭に行はれたが陸上競技は六四點五對四〇點五で本郡の捷ち、籠球男子は二二點對六九點で多賀郡の勝、同女子は二五點對七點で本郡の勝、結局綜合して本郡のリードであると

年寒く「百戶約三百人に救ひの手動く」
同情週間其他事業計劃

年の瀨を控ねて寒さと飢に泣く極貧者の救濟については例年の如く來月二十四日からの同情週間により溫い救ひの手が延ばされる、平助成會でも週間中は各戶に『同情袋』を配布し一般から應分の喜捨を受ける事になり目下各團体と協議を進めてゐる

町當局の意向としては一人五十錢宛給與する筈でこれが要救濟戶數は約百戶、人員は三百名近くに上るだらう

二見學女師生 二歡迎唱歌會

既報—本縣女子師範校本年度第二期敎生は今二十六日夕刻來平一泊、既二十七日平第一校に於ける授業を參觀するが平町三小學校では聯合してこれが歡迎の唱歌會を第二校に開き畫食後觀賞に供すると

漸減の鐵道用を除き 石炭の需要依然增加
最近の各山元發送統計

昨今の地方炭界は屢報の如く、事業の活況に伴ふ各方面の消化愈々旺盛に、鐵道用を除く需要は依然增加の一途を躍進しつゝある、卽ち之を去る十一日以來二十日迄の發送實績に徵するに

營業用四、七七〇車五六〇三五趟　省用一、六九九車二二、二七六趟　合計六、四六九車七八、三一一趟

で前年同期に比し營業用（增差）一、〇六七車八、七五六趟を示し省用（減差）一八七車一、五〇二趟を差引くも尚は合計（增差）八八〇車七、二五四趟と云ふ明朗なる數字を見せ更に上中旬を合計すると千三十二車五千四百五十趟の增を示してゐる

湯本鑒泉認可さる
遊覽地還元の日を待ち
三函區民大乘り氣

總工費七萬七千餘圓の巨費を計上した『湯の町』湯本溫泉復興計劃は既報の如く石川町長の出縣陳情奏功して去る二十二日附伊藤知事から正式地下掘鑿の許可あり平署では今二十六日書類を同町に送附した

町ではこれにより既報の計劃に基いて直に着工、二百五十日以內に竣功せしむる筈であるから明年七月頃には落成、湯の町の面目を[illegible]にするわけだ

年末を控へて 求職者賣込み
忙しくなつて來た紹介所 幹旋

年末を控えて漸く忙しくなつて來た平職業紹介所では再度の凶作騷ぎに祟られて今後の出稼ぎ者も相當の數に上るらしいので積極的に各町村に出張、求職者を斡旋する爲方法其他近く縣當局からの指示を待ち夫々活躍、一方此程開かれた縣下所長會議の申合せによりこれらを消化する求人口の開拓には各紹介所と連絡需給の圓滑を圖る事となつた

好角家を唸らす 白日下の男性美
けふ東京大相撲蓋あけ

大日本大相撲大關淸水川一行の初日興行は生憎の雨に祟られて好角者を失望させたが今二十六日は朝來の快晴で、曉天から鳴り響く櫓太鼓に人の出足を唆り、昨日の赤字を塡めて餘りある盛況裡に龍虎相搏つ壯觀を見せた、明二十七日も引續き二日目を打つ筈で人氣殊の外盛んなるものがある

連累者檢擧
好間からも
縣のアナ狩り展開

縣特高課においては戰慄すべき無政府共產黨中央部の陰謀發覺に鑑み縣下に散在してゐるアナ系分子の內偵を行ひ去る二十三日以來好間村吉田時男（三〇）假名一の外八名都合九名を檢擧、目下同特高課の佐久間警部が會津方部に出張嚴重取調べを行つてゐる

右は大正十二年大杉榮が甘粕大尉に殺害されて以來左翼運動に壓倒されて沒落の過程を辿つてゐたが昭和六、七年度頃よりこれが再組織を計劃、中央逸と潛行的聯絡を執り一味瓜生傳の第五郞（三〇）が中心となつて機關雜誌『土の冬』を發行し縣內同志の糾合と中央並に全國同志と聯絡し基礎確立によつて運動の強化を圖らんとしてゐたものである

●●●●農産物品評會　渡邊村と川部村は二十日から三日間農産物品評會を小學校で開く

愛犬家御用心！
無鑑札整理勵行
至急屆出での事

愛犬家御用心——各所に野犬狩りの行はれてゐる折柄平町では町內三十六名の飼ひ主に鑑札を交附する事になつた、未屆けの向は今月末日迄稅金（月割縣稅六十六錢、町稅五十八錢）を添え、屆け出ないと其筋に報告され野犬としての取扱ひを受けると

職工の盜み　仁井田川改修工事場に地內　各所に野……

平署へ雪崩れ込む 家出人搜索 種々相
弱者は流れ寄る水無き港

紙芝居師　福井市石場畑方二字森嚴寺二〇の一日置吉藏は昨年十二月末東京市向島區吾嬬町西二丁目八一新國祉本部山本一夫の紹介で水戶市久保町東洋會本部久米藤三郞に紙芝居使用の教育書（爆彈健兒外七十三卷）を貸しこれを持ち逃げされたが最近平町に居る事判明したので

自殺の虞れ
子供を殘した人妻 猫いらずを懷中に

東京市牛込區市ケ谷一〇一圓井ミチ（三五）は去月十四日出稼ぎを裝ひ子供を殘し行方不明になつたが同人は猫いらずを所持してゐる處から自殺の虞れあると本籍地棚倉署から

鐵砲玉小僧
田村郡小野新町字七鄕田茂太郞三男若林三郞（二六）は二十二日午後一時頃本郡三阪方面に行くと家出したまゝ行方不明になつたので小野新町署から

着物を持つて女房出奔
田村郡瀧根村神保白岩喜七の妻キクヨ（四二）は十八日午後六時頃着物類を持つた儘行方不明、夫から

來年は適齡
三男坊何處？
田村郡箕輪村大字榊小屋字中根一〇六文治三男遠藤武志（三〇）は昨年九月赤井村高萩芹澤製板所に從業中行方不明になつたが明年適齡に當るので文治から。此程何れも平署へ捜查方に就き照會、或は願ひ出があつた

ガンくの火から 女兒の生不動
手當効無く絕命

好間村大字中好間字鍛冶內四三農猪狩藤平四女和子（五）は二十四日午後五時頃子守役の祖母タツさん（六六）から離れ、友達と一緒に隣家の小川進之助方前に焚いてあつたガンくに火あたり中着衣の裾から燃ね移つて下半身に大火傷、手當て中二十五日午前十一時遂に絕命した

中村正夫君 作戲曲入選

早大政經科在學中村正夫氏（磐中卒業生）は曾て力作平藩落城の戲曲『落城のひとゝき』を同校年刊の稻政に應募して見事入選し昨二十五日賞金及賞牌を授與されたと

姿婆には居れず 再た闇へ逆戻り
性無し男に二年求刑

住居不定無職大野村生れ前科二犯鯨岡元治（三三）が去る十月下旬平刑務支所の勞役留置を了へた後大野村玉山

●●●●古物商へ五圓　勿來町關田字寺下一八古物商佐藤益雄（三九）は去る十月十四日より同二十日迄の間前後三回に亘り同町平子三郞、金小鳳等から屑鉛、銅線、ボロ等を買受けながら記帳を怠り平區から略式罰金五圓

役二年を求刑された、判決は明二十七日言渡し

清田檢事關與公判開廷、懲

から平區で香西判事係り、

事件は今二十六日午前十時

その他六件の窃盜を働いた

の認印並に就勞票等窃取、

の事務所に忍び入り事務員

時頃勝手知つた前記工事場

等々を徘徊、同八日午後十

その後大野、大浦、草野村

餘を懷中して同所を飛出し

出役中、去る一日賃金五圓

二十七日（小名濱測候所調查）

日出 六、二三　月出前 七、二五
日沒 四、二五　月沒後 五、〇六
滿潮 前五、四五 後三、四五
干潮 前一〇、五五 後一一、三〇

舊十一月二日　水曜　丁未　赤口　戊　壁宿　新十一月廿七日

新判定曆　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白 內わにふんぜう起り自力にては解決容易ならず▲二黑 根氣を加へて物事に臨まざれば不調に終る▲三碧 拔け道と知らず入り込みて本道に遠ざかる▲四綠 心ゆるやかに圓滿和平を旨とすれば良好に向ふ▲五黃 一家平穩を希ひ徒に計畫を立てざるが吉▲六白 急進と大望とを愼しめば次第に進展する日▲七赤 策謀思ひ通りに進みて目的をとぐる大吉日▲八白 目上の援護をかうむりて案外の向上を呈する日▲九紫 處理じふたいして焦り氣味となり更に不利なり

廣告

洋樂入門にはハーモニカから
ヤマハバンド ハーモニカ　複音 一・五〇以上　オクテーブ 一・七〇　景品付賣出し
良品は所有者の誇り
山葉ピアノオルガン特約店　國定教科書販賣所
角忠 佐々木商店　平公園前角　電話二三三番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

高久病院
院長 高久忠
平町田町電五一三

季節向御料理

毎度格別なる御贔屓に預り難有御禮を申し上ます
弊店獨特の季節向御料理こ致しまして此度は純江の島料理を始めました何卒御尊來御試食を賜り度伏して御待ち申上げます。

◎江の島料理
松 珍味江の島鍋共五品 御一人前 金壹圓五十錢
竹 同 金壹圓貳拾錢
梅 同 金壹圓
每日獻立替調理致します。
◎水たき
◎鯛茶
豫て御好評のヒナ鳥
御婚禮、忘年會、新年會は特に御相談に應じます。

割烹 住吉屋本店　電一五九番

謹告

店舖改築の爲め十一月廿一日ヨリ向二十日間位左の所に假營業所を開設致し從前通り營業仕り候間御不便を相掛け申譯け無之候へ共何卒當分の間其處に御出の程を伏して御願申上候　敬具

十一月十九日
假營業所 大塚運動具店向
大床 石崎理髮店
各位

丸善製品
定評有る大塚の靴
◎女學生靴 新製品（目下大流行） スポーツ型 三ツハトメ 五、五〇
△月星ゴム長靴 七文より十一半まで
△ゴム半長靴……入荷
△將校ゴム長靴……入荷
冬のアンダーシャツ 七〇より
純毛スエター 二、五〇より
新型ヂャンパー 三、〇〇より
同トレーニングパンツ類
防寒スキー靴下及びボーシ
田町の大塚へ　電話七十七番

廉賣奉仕!!
牛肉ノ部
極上 ロース百匁金六十錢
上肉 同 金四十錢
並肉 同 金三十錢
豚肉ノ部
ロース 同 金五十錢
極上 同 金四十錢
上肉 同 金三十錢
並肉 同 金二十五錢
櫻肉ノ部
ロース百匁金二十二錢
上肉 同 金十八錢
評判ノ　カツレツ 一ケ 金拾錢　コロツケ 六ケ 金拾錢
配達ハ迅速ニ致シマス。
一丁目 武田肉店